

令和5年度 長崎県立口加高等学校 学校評価

<p>スクールミッション</p>	<p>(1) どのような生徒を育成するのか 【社会的役割】</p> <p>校訓「豊かなる情感 透徹せる知性 強靱なる生命力」のもと、新しい時代を逞しく切り拓く「知・徳・体」の調和のとれた人材を育成します。また、ふるさとに愛着や誇りを持ち、地域の魅力創出や国際社会に貢献する人材を育成します。</p> <p>(2) どのような教育を目指すのか 【教育理念】</p> <p>生徒一人ひとりが自分を磨き、夢や目標に向かって努力を重ね、人生を切り拓くことができるようにするために、確かな学力の定着を図るとともに、豊かな人間性を育む教育を目指します。また、国際的な視野で地域課題の解決に取り組む探究的な学びを通して、広い視野や国際感覚を育む教育を目指します。</p> <p>(3) 学校の特色、強み、魅力（独自の教育）等 【今後の方向性】</p> <p>普通科普通コース、生活創造コース、グローバルコース、福祉科それぞれの特色を生かし、生徒一人ひとりの夢や進路目標の実現に向けて、きめ細やかな教育を実践します。また、地域社会、大学、施設等関係機関との共創やICTの積極的な活用により、更に充実した探究的な学びを展開します。新しい時代を逞しく切り拓く知・徳・体の調和のとれた人材の育成を図り、郷土や国際社会に貢献できる有為な若人の育成を目指します。</p>
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>(1) 学校評価のアンケート結果から、全体的に良好な評価だった。</p> <p>(2) 本校の魅力を近隣中学校に伝えるために、研究授業や公開授業を充実させたい。</p> <p>(3) Edtech 教材を導入し、ICT の効果的な活用を進める必要がある。そのためには、ICT 推進教員を中心に職員研修を実施していく。</p> <p>(4) 各科・コースのさらなる魅力を高めるために、特色ある授業や個々の志望に合わせた進路指導、福祉科での国家資格取得に向けた指導の充実を図っていく。</p> <p>(5) 本校への志願者の増加が重要な課題である。生徒の多様な進路希望に応えつつも、さらに進路実績を上げて、中学生や保護者、地域にアピールしていきたい。また、新たな視点での広報活動や生徒募集に力を入れる必要がある。</p>
<p>努力目標</p>	<p>(1) 信頼される学校の確立</p> <p>(2) 確かな学力の保証と進路の実現</p> <p>(3) 豊かな心の育成</p> <p>(4) 品性ある生徒の育成</p> <p>(5) 文化・体育活動の振興</p> <p>(6) 保健・環境美化の充実</p>
<p>令和5年度 重点努力目標</p>	<p>(1) 生徒主体の学校づくり</p> <p>(2) より魅力的な学校を目指した授業改善</p> <p>(3) 探究活動の充実</p> <p>(4) 広報活動の充実</p> <p>(5) 働き方を改革し、業務に対するマネジメント能力の向上を図る</p>

令和5年度 学校自己評価（最終評価）

【学校自己評価】分掌等で設定した目標について4段階で評価する。

4：十分達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌等	努力目標	具体的な方策	R5最終評価 (4段階)	成果と問題点	次年度改善策	
教務部	(1) 円滑な校務運営	①各学年や他分掌との意思疎通を図り、連携を密にし、校務全般の円滑な企画・運営を行う。	3.4	教務部では担当者が調整や直接持参、ポータル連絡等のあらゆる手段で、週案・月案の調整会の早めの提示を徹底し、各担当分掌などが調整しやすいようにしている。回収・集約に今後とも皆さんのご協力をお願いしたい。	教務部としては、引き続き早めの提示を徹底する。週や月の計画に反映されない部分をなくすために、調整会やポータルでの呼びかけだけでなく確実に教務部に伝達してもらえるように各主任や各担当、部顧問のもとに直接出向き、個別の丁寧な確認をしないといけない状況である。教務部からの立案事項は確実に全職員が共有できる工夫を実践している。教務部会で部内検討したものを調整会で各部へ検討依頼してリリースしている。学年教務からの担任会で周知し、再調整、職員会議提示、事後確認などの手順を今後も徹底する。	
	(2) 教育課程及び教務事務の適切な実行	①教育課程が生徒の学力伸長や進路希望などの実態に即しているかを精査し、より実効的な教育課程の編成を行う。	3.5	教育課程委員会ではR6年度の新課程完成年度に関しては特に意見はなかった。引き続き新課程の有効な実施策を提案していく。	毎年7月には次年度以降のカリキュラム編成が必要。教務部としては、新課程完成年度で一段落したところで7限日課や時程の有効な在り方の精査に向けて提案原案を作っていく。	
		②普通科・福祉科を設置する全日制公立高等学校として、適切な授業と評価を行い、出席管理、諸票簿管理、日課管理等を厳正に行う。	3.7	昨年度(R4)末に至急準備し、R5年度は審査実施回数を見直しにこぎつけた。矛盾なく実行できた。公正・適切な授業や評価の一環としてシラバスは欠かせないため、作成依頼の段取りを工夫していく。	教務部発のすべての案件はミスや遅れは許されない。この観点から、皆さんのへの掛け付け以前の部内検討やチェック、事後チェック、整備・保管など部内で協力体制を構築してきている。皆さんの提示は、早め/根回し/調整会/学年教務から担任会での検討依頼投げかけ、などの手順を踏む等を確実に実行していく。	
	(3) 事務室と連携して、教育環境を整備する。			3.8	大規模な廃棄の実施され、すっきりした。	
	(4) 図書館運営の充実	①「稔りの時間」を有効に運営し、図書館情報の発信を積極的に行い、読書推進につながる環境づくりに努める。		3.3	環境づくりは少ない図書担当人員で十分にいただいている。読書の時間を各種アンケートに使うことが多い点は右記の工夫をしている。図書館来館/貸出減少は全員端末の影響ともいえず、対策は全職員で共有して知恵を出し合い。	調査物/アンケートは、担当各位は行事予定を精査していただき、LHRなどの初めの5分を使うなどの工夫ができないだろうか。いつの間にか生徒チームスが上がっている生徒が答える調査なども、全職員が事前に知らない状況がある。月予定や週案表記を徹底して時間調整のうえ計画的な実施を意識するように工夫が必要。
②図書委員会の活性化を図り、図書整備・点検の適切な実施と、生徒が主体的に読書を行う選書及び図書案内を行う。			3.7	掲示物の工夫など興味関心を引く取組を丁寧にさせていただき感謝しています。選書等も適切に実施していただいている。	少数派ではあるが、一定の読書大好き生徒がおり10分休みや通学で本を開いている。朝の読書時間は大切にしないといけない。	
広報研修部	(1) 広報活動を活性化し、情報公開に努める。	①学校の最新情報をタイムリーに提供する。 (ア)「ロ加だより」および「ロ加通信」を定期的に発行する。	3.6	ロ加だよりは毎月発行したが、ロ加通信は数回の発行にとどまった。要因は、業務に追われ、通信の作成までは手が回らなかったこと。ロ加だよりと通信の内容のすみ分けがなされていないこと。発送業務の負担が大きい。	中学生への学校説明会・オープンスクール等の案内をする文書をロ加通信として年間4～5回発行する。	
		(イ) WEBページの内容を概ね週1回更新する。	3.8	目標回数を上回る更新をしてきたが、評価が昨年よりも下がっている。内容の充実を求められているのか。	PTA総会や体育大会、三者面談など保護者が来校する際に口頭や印刷物でホームページやロ加だよりの存在をPRする。	
		②モニター等を利用した、効果的な情報提供に努める。	3.4	上に同じ	特になし	
		③オープンスクール、学校説明会、公開授業や部活動交流をとおり、学校全体のアピールを行う。	3.6	精一杯の取り組みであったが、数字上では生徒増につながらなかった。オープンスクールや学校説明会の開催日が、中学校の行事と重なったことは反省点。	学校説明会、オープンスクールへの参加者増につながる手立てをとる。部活動交流は粘り強く続ける。	
	④報道機関と連携し、地域への情報発信の活性化を図る。	3.3	報道機関との連携は研修部としてはとらなかつた。	広報研修部の業務以外にも報道機関に広報依頼をする機会はあるので連絡窓口は一本化したほうがよいと思う。		
	(2) 生徒・職員研修の充実と推進を図り、生徒・職員の資質向上に努める。	①研究授業や公開授業、授業評価アンケートを通して授業改善に努め、教師間での自主的な授業力の向上を図る。	3.2	公開授業週間の設定、初任者研修および経年研修に関わる研究授業日程の調整を行った。	今年度通り継続する。	
		②人権・同和・平和教育、芸術鑑賞等のあり方を研究し実践する。	3.4	充実した取り組みができた。	人権教育(同和・平和教育を含む)は全ての職員が生徒に指導できなければならないことなので、一分掌だけが担当すべきものではなく、全職員で取り組む体制をつくりたい。来年度からはすべての教員が携わるような実施方法を提案する。芸術鑑賞会は行事の性格上、研修部が担当すべきものが検討が必要。	
③県教育センターや研究機関が主催する各研修への案内を適切に行い、職員の研修参加後はその成果を教科会や分掌会等で共有する。		3.2	適切に研修案内を行った。	今年度通り継続する。		
(3) PTAと地域の連携を図る。	④学年・部活動・事務室と連携し、「青雲寮」の円滑な管理・運営に努める。	3.0	他の部署と連携してはいるが、運動部の合宿等で青雲寮の活用はあった。	今年度通り継続する。		
	①PTA各種委員会の活性化とPTA研修の充実を図る。	3.8	多くの委員のご協力により、活気ある活動ができた。	今年度通り継続する。		
	②地域行事等に生徒を積極的に参加させ、地域に信頼される学校づくりに貢献する。	3.1	研修部としては生徒を地域行事に参加させる活動はしていない。	生徒の活動に関しては生徒育成部が主として担当されているので、次年度ではこの項目の代わりに、PTA総会・文化祭・クリーンアップ作戦への参加率アップを数値目標として掲げる。		

生徒育成部	(1) 社会に貢献できる人材を育成する。	①端正な容儀に努めさせる。	3.3	ブレザーのボタンを留めないなど、容儀がルーズになっているのではないかという指摘を受けた。確かに、日常的に指導する場面が減っている。	①まず職員が服装について共通認識を持つ。 ②生徒への指導。 ③学期はじめと期末考査の最終日に容儀検査を実施する方向。	
		②挨拶を励行し、時間を厳守させる。	3.2	掃除の時間のとりかかりが遅い。部活動終了時間が守られていない。	①掃除の開始時間、部活動の終了時間（19時には敷地外にでること）というきまりについて職員で共通認識を持つ。 ②生徒への指導。 ③19時に下校指導をしてみる。	
		③ボランティア活動をはじめとする対外的な行事を通して、地域に根ざした社会集団の一員としての自覚を促す。	3.5	能登半島地震の募金活動をJRC発信で初めて企画した。	生徒の自発的な動きをこれからも促していきたい。	
		④清掃活動を通して、徳の教育の充実を図る。*	3.2	掃除のとりかかりが遅い。	掃除場所へ素早く移動するよう声をかける。	
	(2) 生徒一人ひとりに帰属意識を持たせ、愛校心を涵養する。	①自主自律の精神に基づいた生徒会活動によって、生徒が主体となった行事の企画・立案ができるように促す。	3.2	昨年に比べポイント低下。しかし、現生徒会生徒が動いていないわけではない。活動が目立たないだけと考えられる。	これから声もかけ続ける。	
		②部活動を活性化し、心身の健全な育成に努める。	3.4	部活動終了時間が守られていない。	19時に下校指導をしてみる。	
	(3) 問題行動を未然に防止する	①分掌・学年・保護者・地域・関係機関との連携を密にし、情報収集を行う。	3.2	昨年に比べポイント低下。関係機関との連携が不十分とみられている。学年ごとの巡視を特に指示を出さず、学年にまかせてしまった。	①保護者や地域との連携を目に見える形で行う。保護者を行う巡視や暮湯祭などの時に連携を密にとる。 ②生徒たちが普通の学校生活をおくれるようになってきた今こそ生徒情報収集のためにお墨の巡視を全校で実施する。	
		②登校指導や巡視を円滑に実施する。	3.2	保護者や職員と夏祭りの巡視を実施。また、秋に1ヶ月あまり、花屋さん周辺の立ち番を行った。目に見える形の指導は効果的。しかし、時間外の活動になるため協力を呼びかけにくい。	これから声もかけ続ける。	
	(4) 交通安全への意識を高める。	①交通関係の集会を実施する。	3.4	自転車通学生・歩行生徒の通学指導の時間をとった。	学校周辺の歩き方や自転車の乗り方については定期的に集会をしていく。	
		②自転車盗難防止活動を継続する。	3.2	自転車点検を生徒育成部教員と風紀美化委員とで年に2回行った。昨年まで自転車販売店の方に来ていただき生徒から500円徴収して行っていたが、全担当者から不必要との申し送りを受け、今年からこの形に。	他校でもお金を徴収しての点検はない。風紀美化委員の前期・後期の役割として定着させたいので次年度もこの形式で実施した。	
	進路指導部	(1) 進路意識・学力の向上	①学年・教科・部活動等と連携を取りながら、学習時間の確保を推進する。	3.3	make it noteやtokumoを活用した。各学年で集計したものを掲示するなど工夫をした。	来年度も継続していく。
			②学年集会・進路講演会等を通じて、生徒の夢ある進路目標の手助	3.5	6月に3年生、8月に1・2年生向けに進路講演会を実施した。	来年度も継続していく。
③進路指導室・自習室・就職指導室を利用しやすい環境に整える。			3.1	過去の資料や不要品の廃棄を進めた。	もっと整理を進める。過去問などの整理に着手し、より使いやすい環境にする予定。	
④時期に応じた適切な進路情報を提供し、保護者の進路意識の高揚を図る。			3.3	5月のPTAは全体では話ができなかったが、各学年で話をするのができた。8月に保護者向けの進路講演会を実施した。来年度も検討したい。	保護者向けは来年度も口之津公民館を使用して多くの保護者に参加を呼びかける。進路指導部の研修も兼ねる。	
(2) 進路指導体制の確立		①個々の進路希望に応じた進路指導体制を確立する。	3.3	3年補習では公務員クラスと短大・専門学校クラスを作った。	国公立大の総合型・推薦入試の出願数が増えた。今年度の情報を共有し、来年度以降も引き継いでいく予定。	
		②補習・模試・校内学習会等を計画的に実施する。	3.6	学年と相談しながら実施することができた。	学年ごとに進路に応じた模試の受け方ができた。	
		③各模試・実力テスト毎の結果分析を詳細に行い、学習指導・進路指導に活用する。	3.4	学力検討会・志望校検討会を実施した。ポータルなども利用して情報の共有を図った。	内容についてさらに検討していく。	
		④教員間の意思疎通を図り、充実した進路指導に繋げる。	3.2	各学年で学力検討会・志望校検討会を実施した。	3年の検討会の見直しや1・2年の検討会の統合などを検討する予定。	
(2) 教員研修の充実		①校外研修、大学入試研究を通して指導力向上の場を設ける。	3.1	進研協主催の九大入試問題研究会に参加していただいた。	学力検討会や志望校検討会などを通じて研修を進めていきたい。	
		②総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試等に応じた指導の研究と実践に努める。	3.3	3学年ではかなり進めることができた。	来年度も継続していく。	
		③大学入試改革を見据え、新傾向問題に対応できる力を育てる授業の推進と研修に力を入れる。	3.2	3年実力テストの作成などを通して各教科で研修の機会を設けた。新課程入試の試作問題について1年生の学力検討会で検討することができた。	来年度は新課程入試になるのでより一層全体に情報を発信する必要がある。	
		④3年間を通じた進路指導体系を確立し、地域の中核校としての意識を高めさせる。	3.3	学力検討会・志望校検討会を実施した。	学力検討会や志望校検討会などを通じて研修を進めていきたい。	

保健相談部	(1) いじめや不適応生徒の早期発見に努める。	①相談部会を定期的に開催し、生徒情報を共有し、連携して早期に対応する。	3.5	定期に部会を開催できた。これからも少しでも早く情報共有に努めたい。	継続する。
		②「高校生活アンケート」を用いて生徒の変化をつかみ、学年(学級)経営と指導に役立てる。	3.5	困り感のある生徒を把握し、適時に面談を行った。年3回実施でよい。	データの分析を職員会議で共有する。
		③ロカロールームを有効に活用して、生徒の相談に対応できるようにする。	3.3	生徒や保護者の面談、感染症防止等様々な状況に有効に活用できた。複数生徒の利用が難しいことが課題である。	ロカロールームの使用について、周知しながら有効活用を努める。
	(2) 特別な支援を要する生徒や多様な生徒に組織的に対応できる体制を整備拡充する。	①健康面・学習面・生活面・対人面等において、配慮の必要な生徒に対する校内支援体制を確立する。また、必要に応じて保護者・外部専門機関(SC,SSW等)との連携を図る。	3.5	各学年や担任とも連携を図り、対応できていた。しかし、学年や担任などの負担が大きいくところもあった。	学校全体で、支援体制を確立していく。
		②奨学金の募集案内を的確に行い、手続き等を迅速に行う。	3.6	定期的に周知し、滞りなく手続きをすることができた。	継続する。
	(3) 健康診断、各種心理検査を適切に実施し、結果に基づく事後指導を的確に行う。	①眼科・歯科については、定期的を受診状況を確認し、治療・改善を促す。	3.7	未受診者に対しては、12月時点で歯科検診結果は年3回、眼科検診は年2回治療の促しができた。	今後も、受診をしてもらえるように定期的に促していく。
		②心理検査結果について説明会を実施し、生徒理解に活用する。	3.5	説明会を実施し、検査結果を生徒理解に活用することができた。	継続する。
	(4) 広報の活性化に努め、健康の大切さについて啓発する。	①「保健だより」「ロカロールームだより」等を発行し、健康管理の実践の態度を育てる。	3.6	保健だよりは、月に1回程度のペースで発行することができた。	継続する。
		②保健委員会や体育委員会の活動を通して、健康寿命の大切さを意識させる。	3.6	保健委員による保健指導を実施できた。	次年度も生徒主体の活動を目標に取り組みしていく。
	(5) 安全管理に努め、衛生的な環境づくりを推進する。	①安全点検・環境衛生検査による健全な学習環境の管理を適切に行う。	3.8	環境衛生検査結果をもとに、お便りの作成、呼びかけができた。	次年度も、よりよい学習環境づくりに努めていく。
②防災計画・危機管理マニュアルを整備する。		3.5	防災計画・危機管理マニュアルの周知を行うことができた。学校の実情を加味し、必要に応じて見直していきたい。	継続する。	
事務部	(1) 関係規則・法令等に則り、適正な会計事務執行に努める。各人が知識の習得に努めるとともに、事務室内の相互チェックを意識的に行う。	①関係規則・法令等の確認を行う。	3.7	今年度は会計監督検査および実地監査を受検したが、大きな指摘をうけることなく、規則・法令に則り適正な処理ができていた。	法改正等に常に関心を傾けながら、引き続き適正な事務を心掛けたい。
		②書類の供覧を行う。	3.7	適正に供覧している。	引き続き適正に処理したい。
	(2) 安全・安心な学校生活を送ることができるよう、施設設備等の維持・管理及び整備に努める。	①校内の点検や安全衛生委員会の報告を基に施設設備等の維持・管理及び整備を行う。	3.8	職員室、保健室の空調機器の更新、介護実習室の空調設置、テニスコート補修等、効果的に施設設備の維持管理を行うことができた。	校舎トイレ全面改修に向けての設計を適正に行うとともに、被服室への空調設置を目指す。
		②目標使用量を定め、使用量が多い場合は節減を呼びかける。	3.8	県費予算の厳しい状況にある中、節約の実施により省エネと必要な需用費を確保することができた。	省エネルギーに加え、文書リサイクル等も試みることで更なる環境保全対策につなげたい。
	(4) 給与・福利厚生等について、職員からの相談等に適切に対応できるように努める。	①手当・福利厚生等について対象職員を把握し、必要書類の呼びかけや制度の説明を行う。	3.7	給与、旅費、福利厚生事務についても適正に処理ができていた。特に旅費については早期支給と適切な予算管理、要求ができた。	引き続き適正な事務処理及び効果的な旅費予算の執行に努めたい。
		(5) 生徒・職員及び来校者が気軽に立ち寄ることができる事務室の雰囲気づくりに努める。	①常にコミュニケーションを取り合い明るい雰囲気を作る。	3.7	窓口業務、電話対応については明るく丁寧な対応することを事務室全員で共有し、実施することができた。

令和5年度 学校評価アンケート結果【生徒】

4：そう思う 3：どちらかと言えばそう思う 2：どちらかと言えばそう思わない 1：そう思わない

質問項目	R05					R04	R03
	4の割合(%)	3の割合(%)	2の割合(%)	1の割合(%)	平均	平均	平均
1 学校は校訓や学校・学級の目標を生徒にはっきり伝えてくれる。	31.5	53.2	14.8	0.5	3.2	3.2	3.1
2 学校には多様な進路希望を実現できる学科・コースやカリキュラム(教育課程)が整備されている。	70.8	26.4	2.3	0.5	3.7	3.6	3.5
3 学年集会や「総合的な探究の時間」など各学年の活動が充実している。	63.4	33.3	2.8	0.5	3.6	3.7	3.5
4 平和、人権・同和について学習する時間が設定されており、理解と意識を高めることができる。	55.6	41.7	2.3	0.5	3.5	3.6	3.5
5 政治や選挙について学習する時間が設定されており、社会参画の意識を高めることができる。	20.8	56.9	20.8	1.4	3.0	3.2	3.3
6 授業その他で環境問題について学習する時間が設定されており、取組も行われている。	23.6	52.3	22.7	1.4	3.0	3.2	3.0
7 交通安全や事故防止について考える時間が設定されており、指導も適切に行われている。	56.5	39.4	3.7	0.5	3.5	3.4	3.2
8 ボランティア活動について十分な情報提供と呼びかけがあり、多くの生徒が参加している。	40.3	50.0	9.7	0.0	3.3	3.2	3.1
9 いじめや悩みの調査が設定されており、対応も適切である。	38.0	52.8	7.4	1.9	3.3	3.4	3.3
10 文化祭や体育祭等の学校行事が充実している。	61.1	34.3	4.2	0.5	3.6	3.6	3.4
11 部活動は活発である。	70.4	27.8	1.4	0.5	3.7	3.6	3.5
12 図書室には読みたい本(見たいDVD)等があり、蔵書が充実している。	53.2	43.1	3.2	0.5	3.5	3.5	3.4
13 学校は施設の安全・美化が行き届き、環境衛生が保たれている。	21.8	56.9	17.1	4.2	3.0	3.0	2.8
14 先生は進路目標の確立とその実現のために、きめ細やかな指導をしてくれる。	55.1	39.8	4.6	0.5	3.5	3.5	3.4
15 先生は生徒の学力を向上させるために、授業の工夫や充実に取り組んでいる。	57.4	40.3	1.9	0.5	3.5	3.5	3.4
16 先生は生徒のことを理解しようと努め、正すべき点は指摘して適切に指導してくれる。	52.8	42.1	4.2	0.9	3.5	3.5	3.4
17 先生は学習・進路・体調等の相談に親身になって対応してくれる。	56.9	39.4	2.8	0.9	3.5	3.6	3.5

令和5年度 学校評価アンケート結果【保護者】

4：そう思う 3：どちらかと言えばそう思う 2：どちらかと言えばそう思わない 1：そう思わない

質問項目	R05					R04	R03
	4の割合 (%)	3の割合 (%)	2の割合 (%)	1の割合 (%)	平均	平均	平均
1 学校の学科・コース・教育課程(カリキュラム)は、子どもの進路希望を実現するものになっている。	44.3	52.7	2.5	0.5	3.4	3.3	3.3
2 学校は子どもの進路目標の確立と実現のために必要な情報を提供して適切な進路指導を行っている。	43.8	47.8	8.0	0.5	3.3	3.3	3.4
3 学校は積極的に保護者や地域に広報・情報発信をしている。	47.8	45.8	6.0	0.5	3.4	3.4	3.3
4 学校は家庭・地域社会と連携・協働した教育活動に力を入れている。	34.3	57.2	8.0	0.5	3.3	3.2	3.2
5 学校は平和教育や、いじめ根絶も含めた人権・同和教育に熱心に取り組んでいる。	22.9	68.7	7.0	1.5	3.1	3.1	3.2
6 学校は交通安全意識を育てるための指導を計画的・組織的に実施している。	28.4	62.7	9.0	0.0	3.2	3.1	3.2
7 学校施設の美化、安全管理、衛生管理は十分になされている。	30.8	59.2	8.5	1.5	3.2	3.1	3.3
8 子どもの学校生活は、基本的な生活習慣が守られ、規律あるものになっている。	38.8	56.7	4.5	0.0	3.3	3.3	3.4
9 文化祭や体育祭などの学校行事が活発で、子どもたちは生き生きとしている。	55.7	41.8	2.5	0.0	3.5	3.5	3.4
10 部活動は全体的に活発で、子どもは積極的に参加している。	59.2	34.3	6.0	0.5	3.5	3.5	3.5
11 子どもはボランティア活動に積極的に取り組んでいる。	20.9	55.2	22.4	1.5	3.0	2.9	3.0
12 職員は子どもをよく理解し、真剣に対応してくれる。	39.8	52.7	6.5	1.0	3.3	3.3	3.3
13 子どもの学習や進路について、保護者は職員に相談しやすく、対応も適切である。	39.3	54.2	5.5	1.0	3.3	3.2	3.3
14 子どもの体調や悩みなどについて、保護者は職員に相談しやすく、対応も適切である。	38.8	54.2	6.0	1.0	3.3	3.2	3.4
15 子どもの学校での様子や事故・病気等について、職員は家庭への連絡を適切に行っている。	43.3	49.3	7.5	0.0	3.4	3.3	3.4
16 訪問時や電話での職員の対応は丁寧かつ適切である。	57.2	39.8	2.5	0.5	3.5	3.5	3.5
17 事務室は諸納金や証明書等について適切に対応している。	61.2	37.3	1.5	0.0	3.6	3.5	3.6

【総評】

<p>評価の結果 (成果と課題)</p>	<p>[生徒・保護者の評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○評価が高かったのは、多様なカリキュラムやコースの整備、総合的な探究の時間で、個々の進路に対応する本校の体制や探究学習に力を入れている成果が出ている。 ○文化祭・体育祭等の学校行事、部活動も評価が高く、生徒の主体性を育む教育成果もその一端と考えられる。 ○進路指導、授業、生徒理解についても一人ひとり丁寧に生徒を指導している本校の教育活動の成果が現れている。 ○地域や保護者への情報発信、家庭・地域との連携や協働についての評価も高く、地域密着型の教育活動が評価されている。 ○主権者教育、環境教育については、生徒の評価が若干低かった。主権者教育においては公民の授業や生徒会選挙、環境教育については海岸清掃等に取り組んでいる。これらの取組の成果を上げる必要がある。 ○平和教育、人権・同和教育、ボランティアについては、生徒の評価と比べ保護者の評価が低かった。本校における活動に関して情報を発信する必要がある。 ○学校施設については、校舎が老朽化しているため、低い評価となっているが、今年度は介護実習室のエアコン設置やテニスコート改修、照明のLED化等の多くの改善に取り組んでいる。また、校舎の全てのトイレ改修のための予算も獲得している。 <p>[職員の自己評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オープンスクールや学校説明会、部活動交流については、志願者数の増加にはつながらなかった。実施日については、中学校の行事を考慮する必要がある。 ○公開授業週間、初任者研修や経年経過研修での研究授業については、円滑に進められた。 ○Edtech教材の活用については、徐々に浸透しつつある。 ○進路面では、補習や校内学習会が学年と連携して行われ、3年生の補習では、公務員クラスや短大・専門学校クラスをつくり、個々の進路により対応できるよう工夫がなされ、一定の成果が見られた。
<p>来年度の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動については、中学校の行事を考慮して、オープンスクールや学校説明会の時期を検討し、より魅力的に内容を充実させる。 ○公開授業週間、初任者研修や経年経過研修での研究授業については、今後とも充実させて、本校の魅力発信につなげていきたい。 ○Edtech教材の活用については、徐々に浸透しつつある。次年度は職員研修をより計画的に進め、活用の成果を高めていく。 ○進路面では、個々の進路により対応した指導を充実させ、探究学習の成果をより生かした進路実現ができるよう工夫が求められる。 ○主権者教育と環境教育に関しては、本校での取組のねらいや目的について生徒の理解を深めて、取組の成果を上げる。 ○施設・設備についてはトイレの改修や教室空調の整備をはじめ、さらなる施設の充実を進める。

